

認知症フォーラム 2013

あきらめない～最新医療と社会の支え～

11月3日、認知症の治療や介護の最新情報を伝える「認知症フォーラム」が、栃木県総合文化センターで開催された。当日は、地元で取り組みを続ける医師、介護施設職員、介護家族の3人が登壇。医療情報や体験談がVTRやスライドも交えながら紹介され、約750人の聴講者は熱心に聞き入った。

宇都宮
会場探録

主催：読売新聞社、NHK厚生文化事業団 ●後援：NHK宇都宮放送局、厚生労働省、栃木県、宇都宮市、栃木県医師会、栃木県看護協会、認知症の人と家族の会 ●協賛：株式会社ツムラ

認知症フォーラム あきらめない
～最新医療と社会の支え～

注目される漢方薬

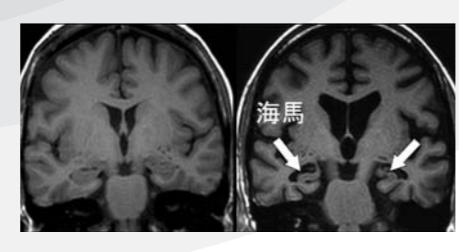
よくかんさん 抑肝散

- ・神経症や不眠症に効果
- ・医療保険で処方可能
(※医療機関にお問い合わせください)



医療法人根岸会 足利富士見台病院 理事長兼院長 根岸 協一郎氏

「医療と介護」だけでなく「地域と家族」まで考える



脳の形を診る機器「MRI」で撮った画像。正常な人の脳画像【左】と、アルツハイマー型認知症の脳画像【右】を比べると、右は記憶を司る部分「海馬」が萎縮しているのがわかる。

根岸 原因では脱水や便秘などの身体疾患、薬の副作用、不適切な環境・ケアなどが挙げられます。まずは心理療法や介護環境の見直しなどを行い、改善されなければ漢方薬や抗精神病薬を用います。

町永 もの忘れは認知症早期発見の大事な手がかりですが「年のせい」と見逃されがちです。根岸 夕飯を例にとると、年のせいによるもの忘れは食べた物を忘れる程度ですが、認知症では食べたこと自体を忘れてしまいます。徐々に進行して生活に支障が出てくるほか、怒りっぽくなるなど精神症状を伴うこともあります。

根岸 認知症の症状にはもの忘れなどの中核症状と、妄想・暴力などの周辺症状があります。周辺症状は、中核症状に本人の性格や環境、家族との関係性などが作用して表れるもので、介護者にとってつらい症状が多いです。近年、医療の現場ではこれを「BPSD(認知症の人の行動と心理症状)」と呼び、原因を解決すれば改善できる症状として対応を始めています。

周辺症状と中核症状 専門家の存在が力に

町永 在宅介護には、医療につながる専門家の存在も重要です。



特定非営利活動法人福聚会 グループホーム無量荘 ホーム長 青田 賢之氏

言葉の裏に隠された 思いを読みとるセンスを

青田 薬で症状が改善すれば本人とコミュニケーションがとりやすくなり、介護に反映すべき情報が多くなります。介護者は、こうして得た情報を医師に返していくことが大切だと思います。

町永 在宅介護には、医療につながる専門家の存在も重要です。

町永 ここで、ケアマネジャー兼ソーシャルワーカーの永島さんに登場していただきます。永島 口腔ケアは怠ると感染症の原因にもなり、本人や家族が願う在宅介護の形が崩れていきます。治療などの「ニーズ」と、自宅で食事を楽しまれたいと願う「ウォンツ」の両方をかなえるのが私たちの仕事。今回、歯科医師につなげたことでお二人の生活が再び流れ出し、大きな喜びを感じました。

町永 認知症の人がなじみの地域で暮らしていくには、こうした介護に加えて地域の力も必要です。



認知症の人と家族の会 栃木県支部 会員 杉村 美稍子氏

つらい日々の中 笑顔くれた人々に感謝

町永 認知症の人と家族をしっかりと支える。これは、施設の方だけでなく、地域や医療と一体になって、本人を中心に据えた介護を実践していきます。

根岸 認知症の人への支えは、最初は診断や治療から始まりますが、進行とともに介護や家族、地域の力が必要になってきます。これからは私たちが医師も、「医療と介護」からさらに手を伸ばして、「地域と家族」まで考えていかなければならないと思います。

町永 在宅介護には、医療につながる専門家の存在も重要です。

青田 スタッフで話し合いを重ねた結果、言葉の裏には深い孤独感があるのではないかとこの意見が出て、自分たちの接し方を見直しました。「死んだ」という言葉を認知症から来る妄想と片付けず、心の変化を疑う――私たち介護のプロには、こうした変化を読み取るセンスが必要だと痛感しました。

認知症 早期発見の目安

<p>もの忘れがひどい</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる □ 同じことを何度も言う・問う・する □ しまい忘れ、置き忘れが増え、いつも探し物をしている □ 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う 	<p>人柄が変わる</p> <ul style="list-style-type: none"> □ ささいなことでも怒りっぽくなった □ 周りへの気づかいがなくなり頑固になった □ 自分の失敗を人のせいにする □ 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた
<p>判断・理解力が衰える</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 料理・片づけ・計算・運転などのミスが多くなった □ 新しいことが覚えられない □ 話のつじつまが合わない □ テレビ番組の内容が理解できなくなった 	<p>不安感が強い</p> <ul style="list-style-type: none"> □ ひとりになると怖がりたり寂しがったりする □ 外出時、持ち物を何度も確かめる □ 「頭が変になった」と本人が訴える
<p>時間・場所がわからない</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 約束の日時や場所を間違えるようになった □ 慣れた道でも迷うことがある 	<p>意欲がなくなる</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった □ 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった □ ふさぎ込んで何をすることもおっくうがり嫌がる

(「認知症の人と家族の会」作成)

上記は目安であり医学的診断基準ではありません。いくつか思い当たる点があれば、早めに専門の医師に相談することをお勧めします。



元NHK福祉ネットワークキャスター 町永 俊雄氏